

これまでの取組

< 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針 >

- ①知識の修得にとどまらない**体験活動の重視**、②国内外の多様な団体との**ネットワークづくりの推進**、③**家庭や地域を巻き込んだ取組**
- 平成28年度から、都内全公立学校(約2,300校)で、年間35時間(週1回程度)、組織的・計画的に展開
- 5つの資質を子供たちに重点的に育成(ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚)



組織委員会や各家庭と安全対策を講じ実施した競技観戦



自治体や家庭と連携し、防災訓練等の地域行事参加



パラ競技団体や近隣学校と連携したパラスポーツ交流



トップアスリートによる講演・体験教室



芸術・文化団体と連携した音楽体験



在京大使館や国際交流団体と連携した交流体験

東京2020大会の灯火を照らし続ける取組

令和4年度から、都内全公立学校は、6年間で培ったネットワークや家庭・地域との連携を生かした体験活動を

「学校2020レガシー」

として教育課程に位置付け、共生社会に向けた取組を継続・発展



≪ 学校の主な取組例 ≫

【ボランティアマインド】 地域清掃や地域行事でのボランティア活動

【障害者理解】 パラリンピック競技や障害者スポーツの体験活動

【豊かな国際感覚】 在京大使館等との交流会、外国とのビデオチャット

共生社会の形成に向けて長く続く教育活動として根付かせ、「**未来の東京**」の担い手となる人材を育成

「学校2020レガシー」を継続・発展させていくための支援

◆ 教育課程への設定を支援

R3実施

- 「レガシーアワード校」の顕彰
 - ・ 6年間の取組内容や「学校2020レガシー」実施に向けた計画が秀逸な学校を顕彰
- 「レガシー報告会」の開催（動画配信）
 - ・ レガシーアワード校からの実践報告 ・ 「学校2020レガシー」設定の視点を指導
- 「レガシーボランティア活動」の実施
 - ・ 各校が設定したボランティア活動を実施（115校参加）

◆ これまでの取組をアーカイブ化・共有

R4公表

- 「オリパラ教育抄録（Moving FORWARD）」の作成
 - ・ 都教委や学校が実施した、6年間のオリパラ教育のまとめ
 - ・ 実践事例や動画をアーカイブ化
- ※別紙資料を参照

◆ 学校の継続した取組を支援

R4実施

- 「学校2020レガシー」の実施を支援
 - ・ 学校のニーズを把握し、支援内容を毎年度検討
 - ・ 地域等の協力確保に向け、「学校2020レガシー」の内容を公開
- 学校が実施してきた5つの資質の育成に向けた取組の継続支援
 - ・ 児童・生徒対象のボランティア情報の提供（ボランティアマインド）
 - ・ 「パラスポーツ指導者講習会」の継続（障害者理解）
 - ・ アスリートの派遣（スポーツ志向）
 - ・ 「文化プログラム・学校連携事業」の継続（日本人としての自覚と誇り）
 - ・ 大使館職員や姉妹校との交流を継続支援（豊かな国際感覚）
- NPO法人等と構築した「学習プログラム」の継続・発展
 - ・ 東京学校支援機構（TEPRO）サポートバンクへの登録

◆ 新たな取組による学校の支援

R4実施

- 大会関連イベント（大会1周年イベント）等への参画
 - ・ 庁内各局と連携し、オリンピック、パラリンピックの大会1周年イベント等への子供たちの参画や選手との交流機会を創出
- パリ大会への継承
 - ・ 子供たちの交流を通して本教育の取組等をパリの子供へ継承
 - ・ 姉妹校交流を支援するほか、新たな締結を促進
 - ・ 実践的な国際交流により、子供たちの豊かな国際感覚を育成
- 「大会関連映像資料」等の活用
 - ・ 大会の開催に向けた東京都の取組等を、映像資料として作成

1 概要

- 6年間のオリンピック・パラリンピック教育をまとめ、デジタルアーカイブ化
- 東京都教育委員会HPに掲載する等、都内全公立学校における活用を促進
- 動画コンテンツを作成し、見て学ぶ教材としても活用

2 目的

- 開催都市として取り組んだ、6年間のオリパラ教育を広く都民に周知
- 学校の取組や子供たちの声、感想等を集め、共有することで、「学校2020レガシー」を促進
- 次期開催都市であるパリ、また、その後の開催都市に、東京都の取組成果を継承

3 集録内容

第1章 基本方針、レガシー等の概要
※ 抄録概要版（8P）として印刷

第2章 全校に実施したアンケート結果

第3章 区市町村立、都立学校の取組記録

第4章 大会関連・都教委事業の取組記録

【動画コンテンツ】 6本作成
取組をまとめた各10分間の映像資料

大会観戦の記録

大会参画の記録

ボランティア環境の取組

障害者理解の取組

アスリート派遣等の取組

文化・国際理解の取組

※ この他5分間のダイジェスト版も作成



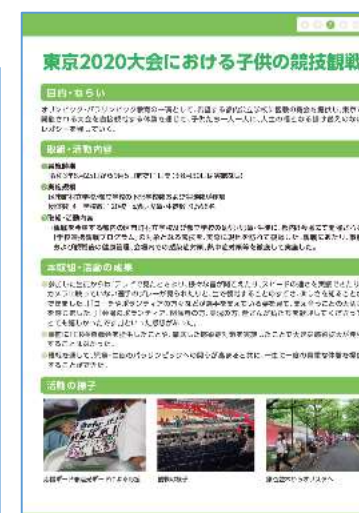
【概要版表紙】



【第3章】



【第4章】



【動画コンテンツ】



4 活用

- 子供たちが動画コンテンツを視聴し、話し合い活動を活性化
- 他校の取組を参考に自校の取組を改善、発展
- 共生社会に向けた学校と地域との協働した取組を推進

オリンピック・パラリンピック教育のこれまでの取組

参考資料

○ 平成28年度から、都内全ての公立学校で年間35時間程度実施 ○ 5つの資質について重点的に育成

	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	平成31(令和元)年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021
・オリ・パラ教育推進校		・オリ・パラ教育の全校実施 ・重点校指定(100校)			・レガシー構築の取組推進		
ボランティア マインド		<東京ユースボランティア>	・バンク開設	・高校生ボラサミ開始	・都立高生海外ボラ体験	・高校生ボラサミFINAL	・東京ボランティア レガシーネットワーク(生文局と連携)
障害者理解		<スマイルプロジェクト>	・パラ競技応援校(10校) ・パラスポーツ指導者講習会 (10回)	(20校) (14回)	(50校) (14回)	(10校) (新型コロナウイルス影響で中止)	(10校) (3回)
スポーツ志向		・公立学校ポッチャ交流大会 (パラスポーツ交流大会)	・被災地連携パラ交流(1回)	(300校)	(300校)	(100校)	(100校)
豊かな国際感覚		・世界ともだちプロジェクト ・コーディネート事業		国際交流コンシェルジュ(開設)	・文化プログラム学校連携 (159校)	(144校)	(147校)
日本人の自覚と誇り			・アワード校(136校)	(135校) アワード環境(19校)	(148校) (32校)	(144校) (28校)	(135校) (27校)
実施方針策定(平成28年1月)			・もったいない大作戦				・学校連携観戦、大会参画
・夢・未来プロジェクト(112校)		(222校)	(300校)				

大会参画の取組

大会本番での参画

学校連携観戦

120校：9568人



未来のスターの指定席 (VR観戦)

13校
296人



オンライン 交流観戦

約30校



応援メッセージ(動画)

約280校参加



都独自の取組

ライブサイト展示 (工業系高校)

オリパラ教育で制作した
作品を展示(Web)



園芸装飾 (農業系高校)

日比谷公園に五輪
マークをかたどり植付



中高生ボラン ティア体験

大会後に代替としてレガ
シーボランティア活動を
実施



全国的な取組

フラワーレーン プロジェクト



マスコット投票
都内全公立小学校参加